

写真1



ネダニ類

写真提供：埼玉県農業技術研究センター

●**ねぎのネダニ類防除**
 ねぎに有害な害虫のネダニ類（写真1）の防除農薬は、2015年（平成27年）に登録農薬が削除されて以降、使用できる登録薬剤の無い状態が続いていましたが、今年の3月に「フォース粒剤」が

ねぎのネダニ類・クロバネキノコバエ類の防除に、「フォース粒剤」が適用拡大されました！



営農経済部 渉外係 奈良 収
 (川本・武川地区、直売所担当)

* 今月号は私が担当しました。

適用拡大されました。

「フォース粒剤」は、合成ピレスロイド系の殺虫剤で、接触作用とガス作用により土壌中の害虫に対して長期間（約一ヶ月）効果が持続します。

使い方は、定植時に10aあたり9kgを作条土壌混和※します。

薬剤の効果を安定させるポイントは、土壌混和をきちんとして行うことです。土壌にしつかりと混和することで、害虫への薬剤の接触率が高まります。

ネダニ類の被害が多い時季は、春から初夏と秋です。定植して間もないねぎがネダニに被害されると初期生育が遅れるため、初期防除に「フォース粒剤」が効果的です。

●**ねぎのクロバネキノコバエ類防除**

近年、深谷市北部地区・妻沼地区で問題となっている、ねぎのクロバネキノコバエ類（写真2）に対しても、今年の3月に「フォース粒剤」が適用拡大されました（同時に、にんじんでも、クロバネキノコバエ類に適用拡大されました）。

使い方は、ネダニ防除と同じで、定植時に10aあたり9kgを作条土

壤混和します。

前述の通り「フォース粒剤」は、土壌中の害虫に対して高い効果があり、残効も長期間持続しますので、土壌中に生息するネダニ類、クロバネキノコバエ類、ネキリムシ類（従来より登録あり）などへの対策としても有効です。

※作条土壌混和：作条の直下に農薬を施用して表土と混和する。



写真2



クロバネキノコバエ類

写真提供：埼玉県農業技術研究センター

■適用病害虫および使用方法（ねぎ、にんじん部分抜粋）

（2018年3月現在の登録内容）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テフルトリンを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネキリムシ類	4～9kg / 10a	定植時	1回	作条土壌混和	1回
	ネダニ類 クロバネキノコバエ類	9kg / 10a				
にんじん	クロバネキノコバエ類	12kg / 10a	は種前		全面土壌混和	
	ネキリムシ類	4～12kg / 10a	は種時			

〈その他の登録作物については、製品ラベルをご確認ください〉